

設 立 趣 旨 書

日本の高度に発展してきた障害福祉の手厚い保護の下にて、自立に向けて教育・訓練を受けた障害者でさえも、ひとたび一般社会に出るとその環境は一変し、健常者主体の余裕・余白の無い社会への順応という見えないプレッシャーにさらされ、多くの障害者が社会参画に障害を感じているのが実状です。社会参画に障害があるが故に、自信と勇気を持って就職したとしても長続きせず、職場を休みがちになるといった状況に直面することは珍しいことではありません。また、特殊教育課程を経ても障害の程度から一般社会への順応が難しいと判断される方々は、障害者主体のコミュニティに限定された施設で生活を送っています。このように、健常者や障害者のどちらか一方を主体とするあまりにも余白に乏しい社会の在り方ではなく、それぞれ異なる身体・知的・精神の状態を尊重・受容し、互いに適切に配慮し合うことで誰もがありのままの姿で輝ける余白のある社会（共生社会）の創造が望まれます。

また、広く社会を見てみるとエネルギーや機械技術の発展によって形づくられた工業社会からIoTや人工知能等のデジタル技術の進化によるデジタル社会への転換を迎えていることが理解できます。工業社会では生産性や効率性が重視されてきましたが、デジタル社会においては共感を生む創造性が重視され、多様性こそがその価値を生み出す源泉であると認められつつあります。これは、障害者を始めとした多様な個がありのままの姿で活動し、多様な他と協働することから創出できる価値であると言え、共生社会の創造は、将来の経済競争力の観点においても最重要課題であると考えられます。

私たちは、心身機能の状態に関わらず、全ての人には多様な社会貢献の可能性があり、また自らの意志で自由にチャレンジする権利を人権として尊重すべきであると考え、これを信念とします。また、私たちは、多様な動植物が共生することで豊かな森林が形成される「自然の在り方」を活動理念とします。

これら理念を実現させる手段として、私たちは、社会参画に何らかの障害を抱える多様な方々（障害者、高齢者、引きこもり等）を仲間とし、仲間の自主性に寄り添い、多様な想い、願い、夢に自由にチャレンジできる余白が十分に確保された農場で共に農業に従事する福祉の在り方として『伴走型の農福連携による農業』を実践します。他では真似することのできない一次製品の生産から、それらの加工・流通の全てを価値提供領域として、社会へ広く発信することから共感の輪を拡げて行きます。私たちは、多様な全ての仲間にとって障害のないコミュニティを創るべく、必要となる支援が既存の制度的枠組みに制限されることが無いよう、経済的な自立を追求し続け、当事者主権に基づき活動して行きます。「ありがとう」は、働く者にとってのプライド（誇り、生きる自信）を育てる魔法の言葉です。私たちは、全ての仲間が心のこもった「ありがとう」の言葉により多く接せられるよう、不特定多数の一般市民・市民コミュニティも巻き込みながら伴走し、仲間達のプライドを地域活性化へ転換させる「共感と共生のコミュニティ」を創り、育みます。誰もが、本来のありのままの姿で輝き、その在り方が周りにも豊かさをもたらす多様性が活きる創造性豊かな動的な共生社会の創造を目指します。

このような共生社会の創造に向け、多世代にまたがる多様な仲間に伴走しながら就労支援やリハビリテーション支援等の様々な福祉サービスを持続的に提供して行く為には、国、都道府県、市町村の諸制度を有効に活用する必要があり、その為には、特定非営利活動法人の法人格が必要です。また、農業を活動領域とした福祉サービス事業の展開には、共感で繋がり共に協働する不特定多数の一般市民・市民コミュニティとの連携が不可欠です。このようなことを検討した結果、私たちは、障害者の日常生活及び社会生活を総合的に支援するための法律（障害者総合支援法）、児童福祉法、介護保険法等に基づく障害者・障害児・高齢者福祉サービス事業を行う目的で「特定非営利活動法人ぷらいどらんど」を設立致します。

2024年5月16日

法人の名称 特定非営利活動法人 ぷらいどらんど

設立代表者 杉 本 有 司